成果報告会兼３地域全体会議(第4四半期)

農福連携マッチング等支援事業　成果報告資料（藤沢地域）

FU-PR-NF-22-006

令和5年3月20日

認定特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構
理事長　手塚　明美
プロジェクトマネージャー　佐藤　正則

藤沢地域の特色

- 都市型農業
  販売農家557戸、就業者数1,461人、経営耕作地面積566ha
  （2022年スタートアップミーティング　藤沢市資料から）

- 農福連携の土壌がすでに存在
  ・藤沢市役所を中心とした活動
  ・2019年「農福連携入門講座」の開催
  （連続講座（座学+実習）８回、オープン講座２回）
  ・援農ボランティア

- 市の農家に対する助成金制度
  令和2年度から藤沢市農福連携促進事業補助金が開始

- 市民活動が活発
  1000以上の市民活動団体（NPOや任意団体）が活動
  （藤沢市市民活動推進センター登録団体データベース）

農福連携を進めるうえで課題であったことと、その対応

- コーディネーターの位置付け

  素養（養成のターゲットは誰）

  →農家、福祉事業所関係者、一般市民（当初計画はJAのTAC）

  養成のレベル（限られた時間でどこまで）

  →半日×3日（基礎編）＋半日×2日（実践編）、広く浅く

  登録の基準や組織（基準、信頼度・立場）

  →養成講座修了、NPOに属するサポーターとして

- 受入れてもらえる農家が集まるか

  →きっかけは必要、段階を踏む、継続のためのフォローも必要

本事業の体制・役割

（１）中間支援組織

・事業のコーディネート
・企画の運営及び実施
（農福連携コーディネーター人材育成研修講座、
スタディツアー、マッチングの場づくり）
・研修会場（コーディネーター人材育成研修講座）の提供
・農福連携コーディネーターの登録・派遣・謝金支払手続に関すること
・経理事務

（２）県

・事業全体の統括
・関係者会議の主催
・地方創生推進交付金の申請手続
・広報周知
・中間支援組織・市、JA等との調整に関すること

令和4年度の取組

（1）計画

コーディネーター養成10名、マッチング5件、延べ就労日数150日

	2022年度計画
農福連携コーディネーター育成研修講座 済み	農福連携コーディネーター養成講座【基礎編・実践編】（2ｈ～3ｈ×5回） **10月初旬～11月初旬** 農福連携の知識及びコーディネート手法の知識習得を行う。 農作業体験と農家の方からの意見収集、契約関連の知識習得及を行う。 ＃1　農福と福祉の現状と課題を知る　東海大学　濱田氏他 ＃2　福祉事業所から見た農福連携　進和学園　久保寺氏、光友会　一杉氏 ＃3　コーディネートとは何かを知る　チガラボ代表　清水氏
	＃4　農家から見た農福連携（農作業体験、ニーズ調査のフィールドワーク） ＃5　契約に関しての基本知識　弁護士　山野氏
スタディツアー 済み	農福連携事例見学バスツアー（半日4ｈ程度） **11月下旬** 農業者が多い北部農業地域のメインターミナルである湘南台駅の東口発着で、マイクロバス2台に分乗して、藤沢地区の農福連携事例の視察（令和3年度マッチング成立事例含む）を行う。 ①令和3年度及び令和4年度マッチングした農家の畑作業見学 ②相原農場（藤沢市宮原） ③令和3年度マッチングした福祉作業所での作業見学、意見交換会
マッチングの場づくり 済み	農福連携スタートアップミーティング（1.5ｈ×2回） ＃1　**4月下旬**　、＃2　**5月上旬** 農福連携マッチング等支援事業と農福連携コーディネーターの役割（機構） 藤沢市の農福連携の説明と助成金の説明（農水課） 藤沢市のマッチング事例紹介（機構） グループに分かれての意見交換会（進行　農福連携コーディネーター）
コーディネーター派遣	4月～3月

令和４年度の取組

（２）実績

●コーディネータ養成講座修了13名⇒コーディネーター登録9名

●マッチング完了4件

※マッチングには農作業受委託契約前のトライアル完了も含む

●延べ就労日数164日

※農作業委託契約を締結した新規のみ

3年間のまとめ

	コーディネーター養成（名）	コーディネーター登録（名）	マッチング件数	延べ就労日数（新規）	延べ就労日数（全体）
R2年度	18	0	0	0	0
R3年度	9	8	4	334	334
R4年度	13	9	4	164	500
合計（実績）	40	17	8	498	834
（計画）	30	N/A	15	450	N/A

農福連携スタートアップミーティング

＃1　4月26日（火）15:30～17:00　一般参加者６名
＃2　5月15日（日）10:30～12:00　一般参加者５名
（#1と＃2は、同内容）
(1) 農福連携マッチング等支援事業と農福連携コーディネーターの役割（機構）
(2)藤沢市の農福連携の説明と助成金の説明（農水課）
(3)藤沢市のマッチング事例紹介（機構）
(4) グループに分かれての意見交換（進行：農福連携コーディネーター）

助成金の説明のタイミングに合わせて、年度のはじめにマッチングの場を設ける試み。意見交換は盛り上がり時間オーバーの回も。

昨年度は、その後の４件のマッチングに繋がった。今年度の意見交換の進行は、農福連携コーディネーターが実施した。

	参加者の属性				表①～⑥の満足度				表⑤ 役立つ、参考となると思ったか	表⑥ 農福連携に関して何かしら関わりたい	表⑦ 事業の意義を感じるか
	性別	年齢	居住地域	職業	①	②	③	④			
		20：30歳未満 30：30歳台 40：40歳台 50：50歳台 60：60歳以上	1：藤沢市内 2：ＪＡさがみ管内鎌倉,茅ヶ崎,海老名,座間,大和,綾瀬,寒川 3：その他	1：福祉事業所 2：農業従事者 3：県市町村職員 4：養護学校教員 5：その他	農福連携とは	市の農福連携	市のマッチング事例	意見交換会			
アンケート回答数	男 7	30歳未満 0	藤沢市内 5	福祉事業所 0	平均点（5点満点）						
					4.6	4.3	4.4	4.4	5.0	5.0	4.6
	女 2	30歳台 0	JAさがみ管内 0	農業従事者 1							
		40歳台 1	その他 4	県市町村職員 0							
		50歳台 3		養護学校職員 0							
		60歳以上 2		その他 8							

⑥とても良い取り組みだと思いました。何か自分にもできるかと考えます。
⑦ミーティング時間が少ない。
⑦農家の困りごともいっぱいあって驚きました。

農福連携コーディネーター養成講座

2022年度　農福連携コーディネーター育成研修講座カリキュラム
　10月1日（土）～11月6日（日）の5回、
　講義とグループワークは各回3ｈ、フィールドワーク（現場体験）は1ｈ
場所：フジサワラボ（1回目）、藤沢市役所本館（２、３，５回目）、
　　藤沢北部の畑（4回目）
対象者：農業もしくは福祉関連の職場に従事されている方、または、援農や共助の社会づくりに興味がある方

回	日時	内容	講師予定
1	10/1（土） 13：00～ 16：00	農業と福祉の現状と課題を知る （１）農福連携とは（Zoom形式）　【1.5ｈ】 ・農福連携の定義、、モデル、事例、効果 ・農福連携の全国動向 （２）神奈川県における農福連携　【0.5ｈ】 ・県における福祉と農業の課題と農福連携施策 ・農福連携コーディネーターの定義と役割 （３）藤沢市における農福連携　【0.5ｈ】 ・藤沢市における農福連携の事例紹介 ・農福連携で受けられる支援と制度	東海大学文理融合学部 経営学科　教授 濱田健司氏 神奈川県 福祉こども未来局職員 藤沢市農業水産課職員
2	10/9（日） 13：00～ 16：00	農業と福祉の現場を知る（その１） 福祉事業所から見た農福連携 （１）進和学園での事例　【1.5ｈ】 ・障害者就労支援等の福祉事情について ・取組む上で知っていてほしい障害者特性について ・過去の農福連携の取り組みの反省から （２）光友会での事例　【1.0ｈ】 ・過去からの取り組み（福祉から農業へ） ・今後の発展（さらに福祉へ、メイブによる6次産業化）	進和学園 統括施設長 久保寺一男氏 光友会 業務執行理事 一杉好一氏

回	日時	内容	講師予定
3	10/16（日） 13：00～ 16：00	コーディネートとは何かを知る　【3.0ｈ】 オリエンテーション 人と事業を活かすコーディネートのカタチ ワークショップ ・理想のマッチングの状態を描く ・コーディネートする相手を理解する ・コーディネーターの役割を考える ・相互の関係構築のためのコミュニケーションのポイント ・実施のシナリオを書く（※マッチングの場を例として） 振り返り	ヒトコトデザイン（株） CEO 清水謙氏
4	10月中旬から11月初旬の平日に 1回1ｈ程度	農業と福祉の現場を知る（その２） 農家から見た農福連携【1.0ｈ】 ・障がい者の方といっしょに畑で作業する。 ・農家の方、福祉事業所の方の生の声を聞く。 ※全4回開催のうち、どれか1回に参加して頂く。 （現地集合、現地解散） 10/18（火）13:30～14:30　ぬくもり畑 10/21（金）10:30～11:30　ゆうファーム 10/28（金）10:30～11:30　ゆうファーム 11/1（火）13:30～14:30　ぬくもり畑	ぬくもり畑 小林万希子氏 ゆうファーム 寺師由布子氏
5	11/6（日） 13：00～ 16：00	コーディネーターとしての活動に向けて （１）契約支援に関しての基本知識【1.0ｈ】 ・コーディネーター（コンサルタント）の責務とは ・契約とは ・契約を結ぶ上での注意点 （２）今後の活動に向けて【1.5ｈ】 ・藤沢市のマッチング事例 ・コーディネーター登録から、マッチング支援まで ・コーディネーター一期生の体験談 ・今後の予定 （３）修了証授与	ふじさわ法律事務所 山野健一郎氏 藤沢市民活動推進機構 職員

雨天予測で11/15に延期したが、11/15も雨天で中止

申込者15名（1名は辞退）→参加者14名→
講座修了者13名（＞目標10名）
（講座の4/5参加。現場体験の雨天中止は欠席とカウントせず）

最終回アンケートでのコーディネーター登録希望者９名（後日1名は辞退）→
コーディネーター登録予定者９名
（アンケートでの希望者以外から1名申請有り）

コーディネーター登録者累計（上記登録予定者含み）１７名

	参加者の属性				表①～⑦の満足度						
	性別	年齢	居住地域	職業	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		20：30歳未満 30：30歳台 40：40歳台 50：50歳台 60：60歳以上	1：藤沢市内 2：ＪＡさがみ管内鎌倉,茅ヶ崎,海老名,座間,大和,綾瀬,寒川 3：その他	1：福祉事業所 2：農業従事者 3：県市町村職員 4：養護学校教員 5：その他	１回目「農業と福祉の現状と課題を知る」	２回目「農業と福祉の現場を知る」	３回目「コーディネートとは何かを知る」	４回目「現場体験」	５回目「コーディネーターとしての活動に向けて」	コーディネーターとして地域で活躍したい	意義ある事業と感じるか
アンケート回答数	男 7	30歳未満 0	藤沢市内 5	福祉事業所 4	平均点（5点満点）						
					4.2	4.0	4.3	4.8	4.1	3.9	4.5
	女 5	30歳台 1	JAさがみ管内 0	農業従事者 0							
	未記入 1	40歳台 3	その他 4	県市町村職員 0							
		50歳台 4		養護学校職員 0							
		60歳以上 1		その他 5							

①難しいと思いながらお聞きしました。
③グループワークでは、グループ内の一人一人の思いが聞けて良かった。
　グループ発表では、他のグループの意見から気づきがあった。
④面白かった。肌で感じることが大切だと思った。
⑥気持ちはあっても農業も福祉も知見不足を感じている。

スタディツアー

2022年度　農福連携事例見学バスツアータイムライン

11月27日（月）8：45　湘南台駅東口出発、12：15　湘南台駅東口到着

農場を運営する福祉事業所１件、福祉事業所の利用者を受け入れている農家２件（内1件は本モデル事業で2021年度マッチング成立の事例）を見学

対象者：農業もしくは福祉関連の職場に従事されている方、または、援農や共助の社会づくりに興味がある方

順	時刻	内容	備考
1	8：30 8：45	湘南台駅東口集合 湘南台駅東口出発 マイクロバス2台（定員の1/2程度で使用）に分乗	
2	9：05 9：05～9：50 9：50	光友会本部湘南ふくし村（獺郷地区）到着 光友会職員（業務執行理事　一杉好一氏他）から事業所説明、作業見学、かわうそ農園見学 トイレ休憩後出発	屋内の人数分散のため、3班に分かれて見学
3	10：05 10：05～10：50 10：50	ゆうファーム（葛原地区）到着 代表　寺師由布子氏から説明、農作業見学、質疑応答 ゆうファーム出発	
4	11：00 11：00～11：45 11：45	相原農場（宮原地区）到着 代表　相原成行氏から説明、農作業見学、質疑応答 相原農場出発 車内でアンケートを記載頂きつつ、湘南台駅東口へ。	
5	12：10	湘南台駅東口到着・解散	

申込者13名（3名は辞退）→一般参加者10名
他関係者10名
・県4名（内2名は関東農政局の方）
・市3名（農水課）
・機構3名

	参加者の属性				表①～⑧の満足度							
	性別	年齢	居住地域	職業	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
		20：30歳未満 30：30歳台 40：40歳台 50：50歳台 60：60歳以上	1：藤沢市内 2：ＪＡさがみ管内鎌倉,茅ヶ崎,海老名,座間,大和,綾瀬,寒川 3：その他	1：福祉事業所 2：農業従事者 3：県市町村職員 4：養護学校教員 5：その他	1軒目『光友会』の説明は如何でしたか	2軒目『ゆうファーム』の説明は如何でしたか	3軒目『相原農場』の説明は如何でしたか	移動中のバスの心地	ツアー全体の時間	ツアーの事例紹介の地域	農福連携をもっと知りたい・農福連携に関わりたい	意義ある事業と感じるか
アンケート回答数	男 4	30歳未満 0	藤沢市内 6	福祉事業所 2	平均点（5点満点）							
					4.8	4.6	4.9	4.9	4.7	4.7	5.0	4.8
	女 1	30歳台 1	JAさがみ管内 0	農業従事者 0								
	未記入 5	40歳台 1	その他 2	県市町村職員 1								
		50歳台 4		養護学校職員 0								
		60歳以上 1		その他 4								

①実際の現場が見られて良かったです。
②始めて1年程とのことですが、利用者さんも作業に慣れている様子がうかがえました。
③農福連携への熱意が伝わってきた説明がよくわかって良かったが寒かった。若い人がたくさんいて嬉しくなった。
⑤もう少し1か所ずつ時間を長くしてほしかった。
⑤面白かった。作業体験してみたかった。スタッフの人と話しながら。
⑥前向きな話が聞けて、色々と希望がもてました。

マッチングの流れ

事務局（NPO）が企画するイベント	派遣された農福連携コーディネーターの役割
4～5月　スタートアップミーティング	前向きな農家や福祉事業所の方の発掘 畑の見学の設定
5～8月　フィールドワーク ①畑の見学 ②雇用に向けたトライアルの設定 ③契約締結支援、助成金申請支援等 ④契約後の作業開始の立会	日程調整、立会・調整進行 特に①時に、作業内容、頻度、作業単価の調整を実施
8月～定着のフォローアップ	農家や福祉事業所の方から作業状況や問題点をヒヤリング

関連するイベント

10～11月　農福連携コーディネーター養成講座（基礎編・実践編）	一期生としての体験談紹介 農業関連講師
11月　事例見学バスツアー	前向きな農家や福祉事業所の方の発掘

マッチングの状況（マッチング成立4件、内契約調整中1件）

（１）長谷部農園-シニアライフセラピー研究所(継続B型・高齢者ディサービス)【契約完了】
来年の１月～3月のいちごの梱包と納入作業。
ビニールハウスでの摘み取りもトライアルとしては実施したが、
今年度は、福祉事業所側が畑に取りに行き、事
業所に持ち込んでの梱包と指定先への納入作業のみとなった。
→12月より火曜日と木曜日の週2日で作業実施

（２）ぬくもり畑-ニコズキッチン（継続B型）【契約完了】
隔週1日2ｈ（奇数週の火曜日13：00～15：00）3名で、
前年度のチャレンジドジャパン同様に契約することとなった。
→現状は利用者２名で作業実施

（３）永田農園-かたくりの里（継続B型）【契約完了】
利用者の農園への就職前のトライアルとして、10月から開始。
作業内容は花のポッドの扱い等、比較的簡易なため、
ゆうファームとは別の利用者でチームを組んでいる。

（４）販売農家（家族経営、米、トマト等）-TRYFULL鎌倉【契約調整中】
コーディネーターが援農ボランティアで知り合った農家さん。
→11月初旬にトライアルを実施し好評。スタッフ1名＋利用者1～2名が週1日で継続
（移動は路線バスを利用）、来年度は少なくとも1名については契約を希望。

マッチングの農家・福祉事業所の動向について

マッチング4件（2021年度からの累計8件）下記は契約変更の情報含む

年度	農家形態	福祉事業所形態	作業形態	賃金（計画時）（円）		作業人数	作業時間（h）	時給（換算）（円/h/人）	作業頻度（回数/月）		2022年度契約後の作業開始時期	2022年度作業終了時期	備考
2021～	ゆうファーム 新規就農5年目 規模4反1畝	かたくりの里 就労継続B型	畑	時給		3	2	800	4	毎週金曜日 9：45～12：00	4月	3月	2021年度開始時の規模は3反
2021	ぬくもり畑 新規就農7年目 規模2反	チャレンジドジャパン 就労移行支援	畑	回数	1500	3	2	250	2	隔週金曜日 14：30～16：30	N/A	N/A	実態は作業者（利用者）2名
2021～	ぬくもり畑 新規就農7年目 規模2反	藤沢ひまわり 就労継続B型	畑	時給		2	2	300	2	隔週火曜日 14：30～16：30	N/A	N/A	2022年は休止中
2022	ぬくもり畑 新規就農7年目 規模2反	ニコズキッチン 就労継続B型	畑	回数	1500	3	2	375～750 （計画時250）	2	隔週月曜日（第1、第3） 13：00～15：00	8月	3月	実態は作業者（利用者）1名 2月から2名に増員
2021	ヒロシファーム 新規就農5年目 規模10反	シニアライフセラピー研究所 就労継続B型 高齢者ディサービス	事業所 持ち込み	回数	7500	10	2	375	12	週3回	N/A	N/A	実態は作業者（利用者）4～5名で30分程度で作業完了
2022	ヒロシファーム 新規就農5年目 規模10反	シニアライフセラピー研究所 就労継続B型 高齢者ディサービス	事業所 持ち込み	時給		5	0.5	1040	12	週3回	4月	3月	2ｈ以下だと助成金対象外 （2021実態と同じと仮に設定した）
2022	長谷部農園 新規就農5年目 規模2000㎡（2反） ハウス（いちご）	シニアライフセラピー研究所 就労継続B型 高齢者ディサービス	事業所 持ち込み	時給		3	2	1040	8	週2回（火、木）	12月	3月	2022年度冬期から開始 （作業人数、時間、頻度は仮に設定した）
2022	永田農園 生産農家 栽培用ハウス9棟 (約 2,800坪、花苗)	かたくりの里 就労継続B型	畑	時給		4～6名	2	500	4	毎週火曜日 13：00～15：00	10月	1月	2022年度秋からトライアル開始。2023年度は4月から再開。助成金は？
2022	渋谷善彦さん 個人農家 ハウス3～4等 （トマト、お米）	TRYFULL鎌倉 就労移行支援	畑	時給		1 ★現在２名で交代勤務	2.5	最低賃金+@で調整中	4	毎週水曜日 AM　0900～1130　2.5ｈ 毎週火曜日以外に拡大検討中	11月	3月	事業所側都合でトライアル継続中 ４月より派遣契約へ移行に向け詳細調整中 補助金申請予定

モデル事業（3年間）の振り返りと気付き

定期的（3ヵ月程度に1回）にコーディネーターを集めて、連絡調整会議を開催している。そこでマッチングの進捗や課題等を検討してきており、第4四半期の3地区会議（成果報告会）に向けて、意見を集約した。

1.マッチングの傾向

（1）新規就農者数年後が受入れ易い

・就農直後は余裕がないが、数年後に安定してくると、労働力不足等の検討の余地が出てくる。
・比較的若い方が多く、オーガニック栽培を始めとした環境問題への配慮等、社会的意識の高い方も多く、障がい者の受け入れのボーダーも低い。
・小規模多品目を扱う方が多く、多品目ゆえの作業の多様性から、年間を通して障がい者にあった作業が提供し易い（日々作業分析をしているかのように見える）。

（2）既に実績のある大規模農園も可能性はある

・量のある軽作業がある。但し、工場労働（簡易な作業）に近い場合もある。
・簡易な作業については、集中力がある障がい者（特に精神障がい）の労働は費用対効果があることは理解頂いている。
・作業は単純な繰り返しに近くなる場合もあり、その場合の障がい者の精神面（コミュニケーション向上等）の効果が薄れる可能性もある。

1.マッチングの傾向（続き）

（3）B型事業所への委託が相互に有益

・農家にとっては、最低賃金以下で良質な労働力が得られる。
・農家は、任せることで本来すべき仕事ができた。
（事業拡大→雇用の増大や工賃向上が期待できる）
・事業所は、利用者の精神面・健康面での効果を実感できた。

（4）福祉事業所側の課題

・利用者の継続性より先に、スタッフの継続性や不足の方が問題のように見える。

（5）都市型農業における実状

・「後継者不足、労働力不足で、耕作放棄地、休耕地が増える」
→他の収入があるので、実はあまり困っていないという話もお聞きした。

（6）「利用者の精神的な面での効果」と「工賃向上・作業効率向上」が伴えばベスト

・自然を感じる、マイペース、多様な作業、⇔室内、工場労働に近い、単純な作業

（7）大規模福祉事業所との連携の可能性

・農園を持つ事業所での事業が拡大して、利用者だけでは賄えなくなれば、その農園で他の福祉事業所の利用者が働くというモデルも考えられる。
（特産品・名産品の開発、藤沢市ではメイプ（ワイン用ぶどう）の栽培等）

1.マッチングの傾向（続き）

（8）輸送や納入業務についての可能性

・畑でなく農産物の輸送や納入に関しても障がい者の方の働く場がありそうとの議論があり。

・福祉事業所の事業として複数の農家の作業を扱う。

・農業を営んでいる方からは、納入先のお店での陳列までが作業となるので、品質確保の点からしても農家の方以外では難しいのではとの意見もあり、

2．コーディネーターの在り方

（1）コーディネーターの役割を定義

・まずは自分の所属する組織を対象にマッチングして頂いた。

（2）コーディネーター個人が持つ優れた点を活かす

・個人が持つネットワークを十分に活用できている。

・マッチング成立者を交えたチームでの活動も有効である。

（3）ボランティアとしての制約

・お仕事を持たれている方が多く、土日しか活動ができない。
（土日は行政や福祉事業所がお休みで調整等は困難）

・事務局が準備したイベントへの参加や、候補に従った活動が主となるため、自走化できる方は限られる。

3．行政やJAへの要望

（1）神奈川県

【トライアル等の農家・福祉事業所との調整の中での気付き】

・精神障がい者・知的障がい者だけでなく、身体障がい者への対応拡大

→車いすで作業できる環境を構築し易くするための方策

- ビニールハウスの通路や畑の通路を広く確保するための補助金
- 畑作業が可能な車椅子等の産学連携での技術開発

→福祉事業所での持ち込み作業を拡大するための方策

- 運輸業者やボランティアとの連携による事業所への輸送や納入

（2）藤沢市

【きっかけとして重要となる助成金に対しての意見】

・福祉事業所の対象範囲の拡大

→農業振興の観点からすると、福祉事業所が市内になくても良いのでは。

・助成期間の制限

→新規の方を開拓して裾野を広げるためには、助成の継続年数に制限は必要ではないか。

・計画で締め切っても、実績が伴わず、予算が余る。何か方策はないか。

（3）JAさがみ

・JAさがみ自体での、更なる福祉事業所との作業契約（利用者が作業）、もしくは就業の可能性を検討して欲しい（わいわい市での事例があると認識している）

アウトカム

農家の方の声

- 土作りから収穫、片付けまで、全般に渡って作業してもらっている。
- 自分でないとできない作業、自分でなくてもいい作業を振り分けられるので、その分畑の管理に少し手が回るようになった。
- また、ひとりでは効率の悪い作業でも、複数人で動いてもらうことで何倍もの速さで進んでいくので、計画の推進力となっている。

アウトカム（続き）

福祉の方の声

- 日頃、屋内でばかり作業しているので、運動不足の利用者さんにとって、とても良い気分転換になっている。
- ほとんどの利用者さんが農作業未経験であったが、今では指示に従って自信をもって作業に取り組むまで成長した。
- 事業所内では利用者さん同士が協力し合って何かの作業に取り組むことは少ないが、農作業ではコミュニケーションを図りながら行う必要があるため、対人関係において、また就労するうえで、とても良いトレーニングになっている。
- 自然の中で、土に触れ、野菜を育て、収穫する喜びを感じることで、精神的な安定に好影響を与えていると思われる。
- 作業時間が午前中の2時間というのは、体力的にも精神的にも、ちょうど適した時間と思われる。

同様の課題を抱える市町村へのアドバイス

- 助成金については、額ではなく、その存在そのものが、マッチングの活動のやり易さ（農家の方をお誘いし易い）に繋がる。
- コーディネーターの本業が多忙で農家の方の都合と合わない、会社によっては副業となってしまうため謝礼がもらえない等、コーディネーター側の事情も十分に考慮する必要がある。
- 専門性も必要と思うが、コーディネーターのやる気にかかるところも大きい。勉強会等を開催してモチベーションアップ。
- 組織内コーディネーターから、組織間コーディネーターへ育成。藤沢市は、現時点では福祉系の組織間コーディネーターが多い。
- 農家の方と福祉事業所の方を、バランスよく集めないと、マッチングの場を開催しても、その進行が難しい。
- 継続についてのフォローは必須
- 農家と福祉事業所との繋がりがある、行政の支援は不可欠です。

コーディネーターの構図

組織間コーディネーター

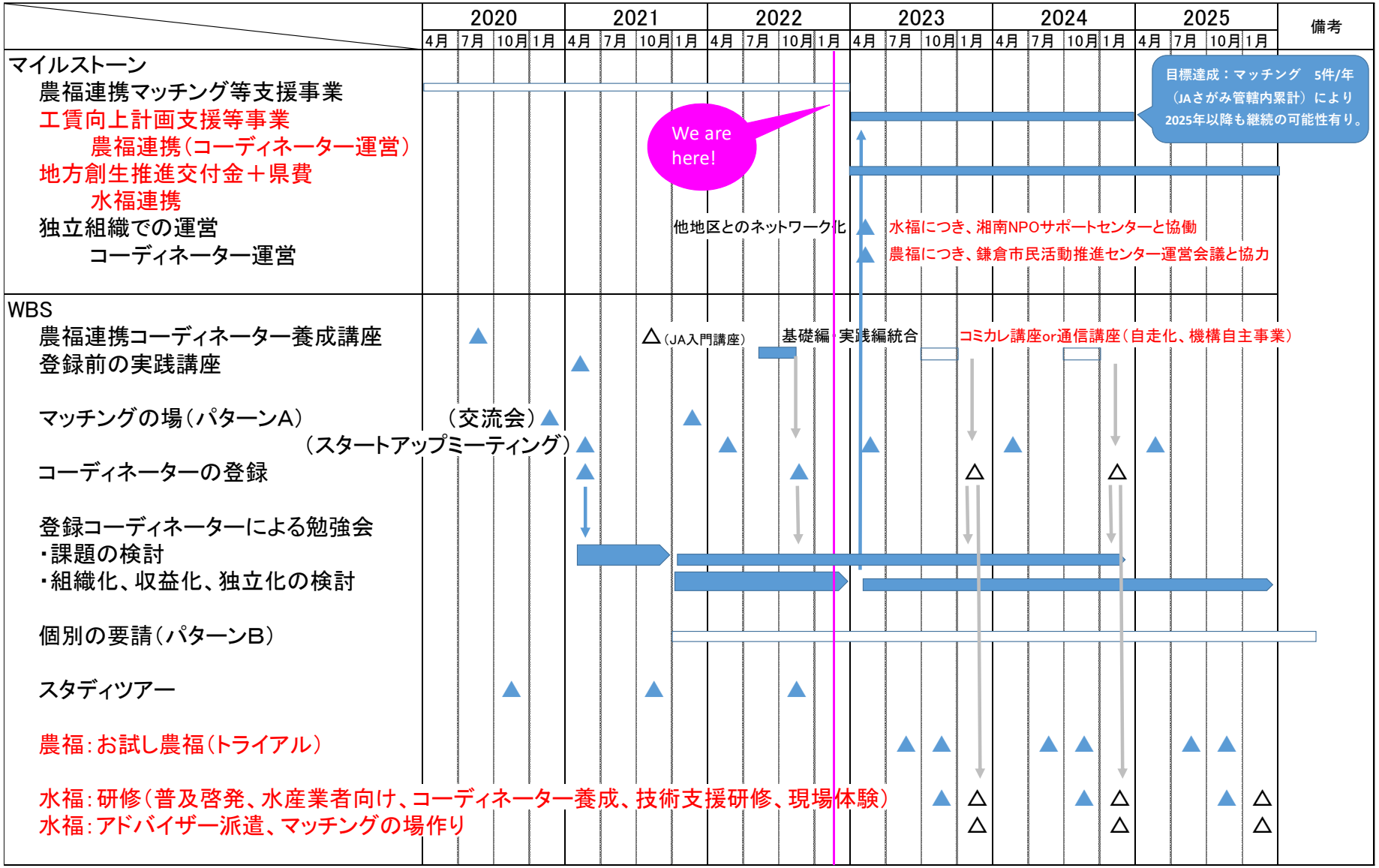
農家の方と障がい福祉施設（もしくは障がい者）とのマッチングを行い、農福連携の輪を広げて行く

組織内コーディネーター

農

現在経営されている農園等を中心として、障がい福祉施設（もしくは障がい者）へのアプローチを具体化して行く。

福

現在お勤めの障がい福祉施設等を中心として、農業者へのアプローチや、農業経営化を具体化して行く

ロードマップ（2020→2025）